

ファナ地域での5年の活動を振り返って

2007年にファナ地域で活動を始めてから5年が過ぎました。首都バマコから120kmほど東にある農村地域ですが、首都から近いこともあり、都市への薪炭の供給地として農村部の灌木林が伐採されています。私達はこうした身の回りの森林を保護し少しづつ回復させていく

ために、苗木を配り、住民が思い思いの場所に自分達の使える林をつくるという活動を進めてきました。

今回は、日本人が派遣できない中、活動を担ってくれているマリ人スタッフ・トラオレさんにスポットを当て、写真を多く使ってその活動の一端をご紹介します。

多数の村で学校林づくりを支援ーその目的は?

現在の活動写真

将来のイメージ

1 緑陰のため

古いマリの学校の校庭には緑陰樹のニームがよく植えられています。緑陰樹は暑さや風雨から子供達を守ってくれます。



2 将来の資材のため

生徒数は年々増加していますが、校舎の建設は追い付いていません。写真の様な簡易校舎の資材のためにも木を植えます。



3 敷地の境界のため

学校関係者は学校の敷地を村人に明確にしておきたいので、境界に木を植えておきたいと思っています。



4 環境教育のため

井戸のない学校が多く、生徒達は家からバケツなどで水を運んでいます。水やりしながら、木を育てるということを学んでいます。



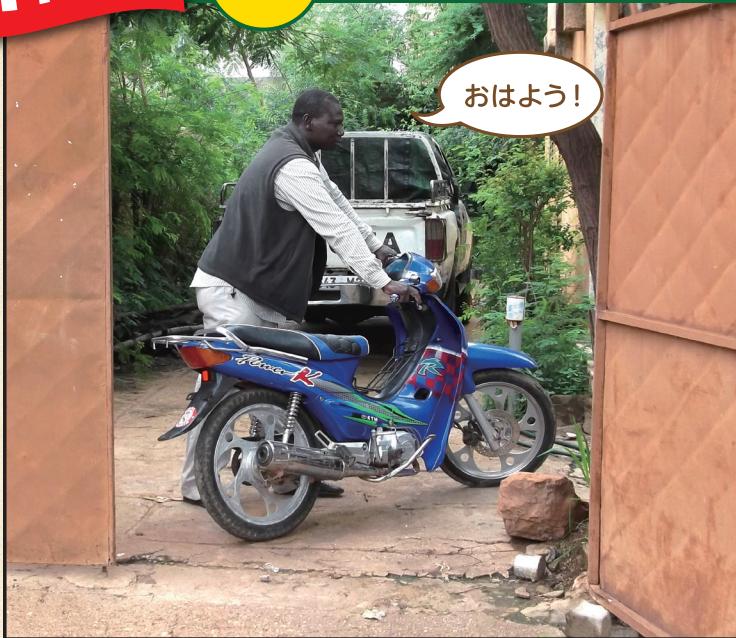
トラオレさんの活動に密着!!



ファンでの3日間

1日目

8:00 バマコ事務所に出勤



8:10 事務所の苗木を積む



10:30 地域苗畑で苗木を仕入れる



前より行政の事業が減って、売れる本数はかなり減った。だけど、村人や町の人達が苗木を買ってくれている。



出会いはCCA-ONGで

スタッフのトラオレさんは20年以上の付き合いになります。サヘルの森がマリで活動し始めた頃、活動のために車をCCA-ONG（マリNGO協議会）から運転手つきでチャーターしていました。CCA-ONGには運転手が大勢いて、北の砂漠地帯へ行くには経験豊富な運転手を

指名していましたが、不在のときには整備もできる若いトラオレさんを指名していました。黒人のバンバラ族であるトラオレさんは北の遊牧民・トアレグ族の言葉は喋れませんでしたが、何回か出張するうちに覚え、日本人スタッフと仏語やトアレグ語で会話しています。



14:00 苗木配布と配布苗の生育状況の確認



17:00 レストランで夕食



22:00 ホテルで就寝



●バマコ事務所の苗畑

マリ人スタッフがバマコ事務所の裏庭で、地域苗畑では育成していない地域の在来種を中心に育苗しています。

●地域苗畑

地域に存在する個人で行っている苗畑。配布用の苗木を購入することで間接的に支援をしています。将来住民が自分達で木を植えていく上で大切な存在であり、苗畑と住民をつなげる試みも行っています。

●苗木配布

村人個人個人に苗木を配布し、皆思い思いの場所に植えもらっています。枯らしてしまう人もいますが、自分で自由に使える木を育てられるということで、その意気込みも違います。

●生育状況の確認

苗木配布して終わりではなく、その後の生育状況を確認して、村人がどう木を育てているのか把握し、今後の配布に活かしています。こうして確認することは、私達と村人との双方の励みにもなります。

2日目

7:00 ホテルで朝食



8:00 地域苗畑で苗木を仕入れる



10:00 苗木配布



(*Annona squamosa*) もようやく実をつけるようになったわ。今から香りの高い果実の収穫が楽しみ。

●学校林の育成

小学校などに苗木を運び、村人と共に学校林として木を植えています。学校林の目的は様々ですが、生徒達の木を育てるという意識も育んでいます。

15:00 学校林のメンテナンス



かつてはトラオレさんの“ベンケ”が活躍

トラオレさんは10年くらい前に一念発起し、斜陽であったCCA-ONGを退職しました。退職に際しては非常に悩み、母親の勧めでマラブー（イスラム教の修道士）のところへ行き助言をもらったそうです。退職後はヨーロッパ直輸入の中古のベンツのマイクロバスを購入し、運送業を始めました。運送業が軌道に乗り始めた頃、運転手を探していたサヘルの森から声が

かかり、活動に加わりました。5年前に四輪駆動車が来るまで、トラオレさんのマイクロバス“ベンケ”で村々を回っていました。四輪駆動でないために雨期には大変苦労しましたが、多くの苗木や資材が運べて重宝しました。“ベンケ”というのは、幼くして亡くなった息子の名前で、常に彼と共に居られるようにと日本人スタッフが車に名づけました。



3日目

8:00 ホテル前の屋台で昼飯を仕入れる



9:00

ファナ試験地の草取り

雨期の草の丈が短いうちに鍬でかいてやれば、乾期の野火対策はバツチリ。



16:00 バマコ事務所着

中国のおかげでバマコとセグーを結ぶ道路が良くなった。これで事故も減る。

• フアナの試験地

地浅い土地にどのように木を植えるか、自然に生えている木に習い、盛り土をしたりアリ塚に植えたりと様々な方法を試みています。日本人が来て何かしていると、興味を持って覗いていく村人もおり、図らずも住民との交流が生まれています。

チャンガラの林の夢

簡単な整備ができる、非常に丁寧な運転をするトラオレさんですが、土をいじる仕事も好きなので、サヘルの活動の中でも率先して木を植えています。そんな彼が最近よく口にするのが、チャンガラ (*Combretum ssp.*) の林を育てたいという夢です。チャン

ガラはマリの木の中で最も薪炭材として適した在来樹木で、種子が実る前に切られてしまうため、種子が手に入りにくいものです。最近彼がファン地域の村に買った土地にチャンガラの林を育てようかと話しています。



家庭菜園の中



グアバ (*Psidium guijava.*)

家の敷地



スンシン (*Annona squamosa.*)

穀物庫の脇



パパイヤ
(*Carica papaya.*)

トラオレ
配布した苗木は
**どこに植えられて
いるのでしょうか?**

穀物畠の脇



バオバブ
(*Adansonia digitata.*)

農園の生け垣



アカシア・ニロティカ
(*Acacia nilotica.*)

村の全景

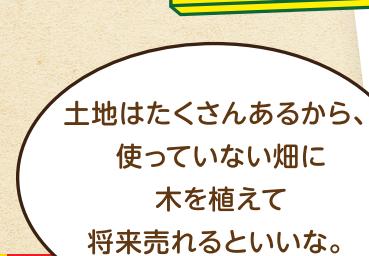


モスクの広場



カイセドラ
(*Khaya senegalensis.*)

休耕畠



ユーカリ
(*Eucalyptus camaldulensis.*)

ファナ地域での活動

ファナ地域は、首都バマコから車で2時間で行ける農村地域です。サヘルの森の活動としては初めてのマリ南部での活動地です。これまでのマリ北部の活動地より降水量(年約700mm)は多いですが、都市に近い分、その消費を支えるため、薪炭として切られる木の量は大変多い地域でもあります。幹線道路沿いには周辺村から集められた薪炭が並べられ、商人や通行人に買われていきます。



このような地域で、村人たちが自由に使える林を各自で育てられるよう、苗木を配布し、必要があればどのように植え育てるか示しながら支援を続けています。将来的には村人が地域苗畠から苗木を直接仕入れて植林を継続し、地域の資源をコントロールできるようにしていきたいと考えています。



Information

募金・カンパにご協力ください。

日頃よりサヘルの森の活動にご理解とご支援をいただきありがとうございます。
2012年のクーデター以来、日本人が送れない状況が続き、一部、助成団体の支援が受けられていません。現地活動を円滑に進めるにも、皆さんのさらなるご支援をお願いいたします。

会員募集中!!

サヘルの森に入会されると年数回、機関誌『サヘル』のほか、報告会等のお知らせが届きます。

一般会員 年 5,000円
維持会員 年 20,000円

サハラ砂漠の南縁・サヘル地域での植林活動を継続的に支援いただくためにも、是非ご入会ください。

募金・入会のお申し込みは…

振替用紙に

- ①住所
- ②氏名
- ③電話番号
- ④送金内訳(会費、募金など)
- ⑤領収書の要不要

を明記の上、郵便振替で下記口座にお振込みください。

【郵便振替口座】 00170-6-115054
サヘルの森

特定非営利活動法人 サヘルの森

〒194-0013 東京都町田市原町田1-2-3 アーベイン平本403 (株)エコプラン内
TEL: 042-721-1601 (留守電対応) FAX: 042-721-1704
ホームページ: <http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/>
E-mail: sahel-no-mori@jca.apc.org

機関誌『サヘル』ファナ特集号

発行: 2013年10月7日

発行人: 坂場光雄

編集・印刷: (株)ネオ・コミュニケーションズ